

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771500406		
法人名	ハート・ケア・シオザキ株式会社		
事業所名	グループホーム 袖村		
所在地	丸亀市飯山町西坂元字袖村928-1		
自己評価作成日	平成24年8月25日	評価結果市町受理日	平成23年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JiryousoCd=3771500406-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成24年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者に合わせて、時間を自然に経過しているところ。内外に緑が多く、毎日の入浴等、ゆったりと生活しているところ。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>静かな田園の中の住宅地の一角に位置し、外見からは事業所に見えず、大きな家として地域に溶け込んでいる。近隣とのつきあいは、採れた野菜をあげたり、もったりするお付き合いや、子どもたちの出入りなど温かい交流がある。利用者とともに生活するという理念が共有され、いつもさりげなく利用者に寄り添っているのが安心して過ごせている。利用者の明るい元気の表情が印象的である。看取り介護については、家族との話し合い、医療機関との連携もよく、丁寧な実践がなされている。食事は採れたての旬の野菜を使い、食べやすく調理されている。屋外での焼き鳥など、楽しい工夫もされている。利用者職員がともに暮らす大きなおうちである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	双方よく話し合っている。	家族の一員のような気持ちで共に支えあい、一緒に生活することを理念とし、村長はじめ全職員で共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あまり交流はしていない。	農家からはたくさんの野菜が届けられたり、近所の方には、ホームで採れた野菜を届けたりする温かい交流がある。学校から帰った子どもたちが遊びに来ることが、利用者を元気にしている。幼いときに遊びに来ていた子どもが大きくなっても訪ねてくるなど、地域に根づいてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談がある都度応じている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の意見は参考になることが多い。	利用者家族代表、福祉ママ、民生委員、地域包括支援センターの方々とは年6回実施している。ホームの状況を報告したり、その時々で、高齢者に関することや介護に関する議題をあげて協議し、お互いに意識を高めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携はあまりとっていない。	必要に応じて連絡を取りあい、連携はスムーズで良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いっさいの身体拘束をしていない。	入居まもなく徘徊する人にはずっと一緒に歩くなど、利用者に寄り添うことで安定させ、施錠はせず戸は開放している。車椅子からずれ落ちそうな方も、気をつけて何回も姿勢を整えるなど、拘束のない介護を実践している。	

グループホーム袖村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会をとらえて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	もちろんそうしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表わせる機会を設けていない。	家族との信頼関係を大切にし、面会に来た時などにご意見を聞くようにしている。家族の面会は多く、土曜日はにぎわっている。一緒に食事をしたり、普段の生活を見てもらうことで信頼を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	このことはよく話し合われている。	家族で運営しているので常に意思疎通はできているが、意見交換の場はできるだけ設けるように心がけている。	職員間の意思疎通もよく運営はスムーズであるが、今後一層の充実のためにも、いろいろな会議の記録等の工夫を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準以外は整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば研修をしている。		

グループホーム袖村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	よく他のグループホームからの見学がある。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に初期における信頼関係には気がつかっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聞き、要望を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用は考えない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム袖村の一番の目標が、共に過ごし支えあうことである。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にして、共に本人を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会を大切にしている。	家族の方が、利用者の兄弟や近所の方を連れてきてくれるので、その方たちを大切に迎え、話しやすい雰囲気を作り、馴染みの方との関係が継続するよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる人ができない人を支援してくれるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も時々、顔を見に自宅へ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いについてはいつも考えていることである。	常に近くにいるので、思いを把握しやすい。不安で寝付けない人には添い寝をするなど、一人ひとり丁寧に、その人の思いに寄り添う介護を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャーなどからよく話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の時間の流れの中における変化には気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係する人すべての者から話を聞き、計画を立てている。	家族からはあらかじめご意見をお聞きし、計画担当者を中心に関係者が集まり、お互いの意見や気づき、利用者本人の思いを話し合い、介護計画を作成している。また、6ヶ月ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有するため、日々の記録を明確にして計画につなげている。		

グループホーム袖村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なかぎり、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまりできていないと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、本人、家族、職員共に良好な関係にある。	持病のある方は、かかりつけ医に継続受診をしている。月2回、全員が協力医療機関の往診を受けている。入居時には、全員歯科受診をして、義歯の矯正や治療を受け、清潔で丈夫な歯を維持している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は在籍していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は各病院にすみやかに情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まったくそのとおりにしている。	重度化や終末期の介護については、村長の思いが深く、入居時から家族と段階を追って話し合いをしている。協力医療機関との連携もよく、その時の最善の方法で対応している。現在も重度の方を、医療機関との連携で丁寧な介護を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にはしていないが、急変にそなえての対応は常に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をしている。	避難訓練を年2回行っている。防火設備や備蓄もきちんと整えられている。非常時は近隣の方に協力をお願いしている。	消防署や警察、運営推進会議のメンバーの方などの参加を得て訓練を実施し、災害に対して多くの方の協力を得るような試みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては特に留意している。	言葉かけや接し方は、自然体で優しい。自分の家族に接する思いで介護を行っている。尊厳やプライバシーは守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な中で自分の意見を言ってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人、職員が常に話し合い何を望んでいるか、理解できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性が多いので特に朝に気をつけて、さっぱりとした服装にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の間は楽しく、おいしくいただけるようにしている。	食事は毎回手作りである。畑で採れた旬のものを中心に、食べやすく調理されている。屋外での焼き鳥、バーベキューなど、目先を変える工夫もされ、楽しい食事が提供されている。誕生日にはその方の希望を聞き、好きなものが出される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量に合わせているし、水分量も夏には1300cc飲んでいる。		

グループホーム袖村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後のうがい、ブラッシングに留意している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ自分でトイレをできるように支援している。	個別の排泄パターンにより、トイレ誘導して排泄の自立を支援している。リハビリパンツを使用している方も、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の中に、野菜、イモ、豆を多くとり入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日夕方に入っていて、ゆったりした気分を味わってもらっている。	月曜日は全員、朝風呂をゆっくり楽しんで気分転換を図っている。入居者全員がお風呂好きで、他の日は午後からの入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースの中での休息、安眠に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は職員がしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に合わせて役割をもってもらっている。		

グループホーム袖村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、気晴しになる所へ出かけている。	季節に応じて花見などに出かけ、楽しむ機会を作っている。近くの散歩は日常的に出かけ、買い物にも希望があれば同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は本人には渡していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	理解できる人には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体として落ちつけるような空間にしてある。	窓辺にはゴーヤの緑のカーテンが涼しげで、室内にも観葉植物がたくさんあり、落ち着いた雰囲気である。戸を開けているので心地よい風が通り、開放感がある。あちこちにベンチもあり、どこでもくつろげるように配慮されている。掃除も丁寧に清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長いす等で話しができるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とも話し合い、落ちつけるようになっていく。	それぞれに使い勝手のよいように持ち物が置かれ、窓からは朝顔が見えるように植えられている。遮光ネットが張られ、過ごしやすい配慮がなされている。お昼寝も自分の居室でゆっくりできている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体として、落ちつけて、危険のないようにしている。		